

第一章 整備基本計画の位置づけ・構成

策定目的

- J R 宇都宮駅西口周辺地区の整備に向けて、行政・地域・事業者などまちづくりに関わる関係者で共有する、地区の将来像や整備方針、駅前広場の整備計画などをとりまとめた「J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」（以下「本計画」という。）を策定するものです。

対象範囲・目標年次

○対象範囲

- 本計画の対象範囲は、平成25年3月に策定した「J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想」における対象範囲を基本としつつ、土地利用状況や交通基盤の状況、地区内のまちづくりの動向などを踏まえて、駅前広場とその周辺の民間街区を中心としたエリアとします。

○目標年次

- 第6次総合計画基本構想やN C C形成ビジョンが示す2050年の目指すべきまちの将来像を見据えたうえで、駅西側ライトラインの整備と駅前広場の再編、さらには周辺民間街区の再開発等の進展を見通し、概ね10年後の2035年を目標年次とします。



計画の位置づけと上位計画の関係

- 本計画は、本市が目指すスーパースマートシティの土台となるN C Cの形成に向けて、重要な拠点である駅西口周辺地区を県都の玄関口にふさわしい風格と活力あるエリアとしていくため、駅前広場と周辺街区が一体となって再編を進めていくための実施手法を示す計画と位置づけます。

第二章 駅西口周辺地区の現状と課題

地区の現状と課題

- 基本構想では「空間（都市機能・土地利用）」「交通（交通結節機能）」「景観（景観・アメニティ）」という3つの視点で課題整理を行いました。本計画ではこれらに基本構想策定以降の「社会状況（環境の変化）」を加えた4つの視点から現状分析と課題整理を行います。

◆空間に関する現状と課題

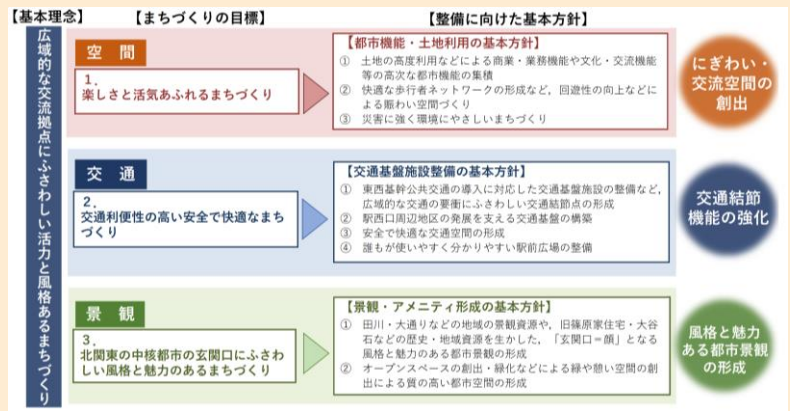
①建築物の老朽化	➡	将来整備に向けた課題 ● 低未利用地の有効活用・高度利用を行うことで、より一層の地区の活力や魅力向上を図っていく必要があります。 ● 建築物の更新等を進めるとともに、N C Cの形成に向け、良好な生活環境によるさらなる街なか居住を推進する必要があります。 ● 東口のまちびらき、ライトライン開業などの人の流れを西側へ繋げ、さらにはまちなかまで繋がる官民一体的な土地利用を検討し、ゆとりある歩行者空間や賑わい空間を創出する必要があります。
②大規模な低未利用地		
③再開発事業等の促進		
④居心地の良い滞留空間の不足		
⑤ゆとりある歩行者空間の不足		

◆交通に関する現状と課題

①自動車・歩行者動線の錯綜	➡	将来整備に向けた課題 ● ライトライン駅西側延伸を見据えた自動車動線・歩行者動線を整理するとともに、誰もが安全・安心に移動できる乗換環境を整備する必要があります。（ライトライン駅西側延伸時まで特に対応が必要な課題） ● 自動運転技術をはじめとしたデジタル技術の進展等、交通環境の変化に合わせた可変性のある空間づくりを進める必要があります。
②バス待ち列や乗降場への動線		
③交通結節機能の強化		
④交通分野におけるデジタル化		

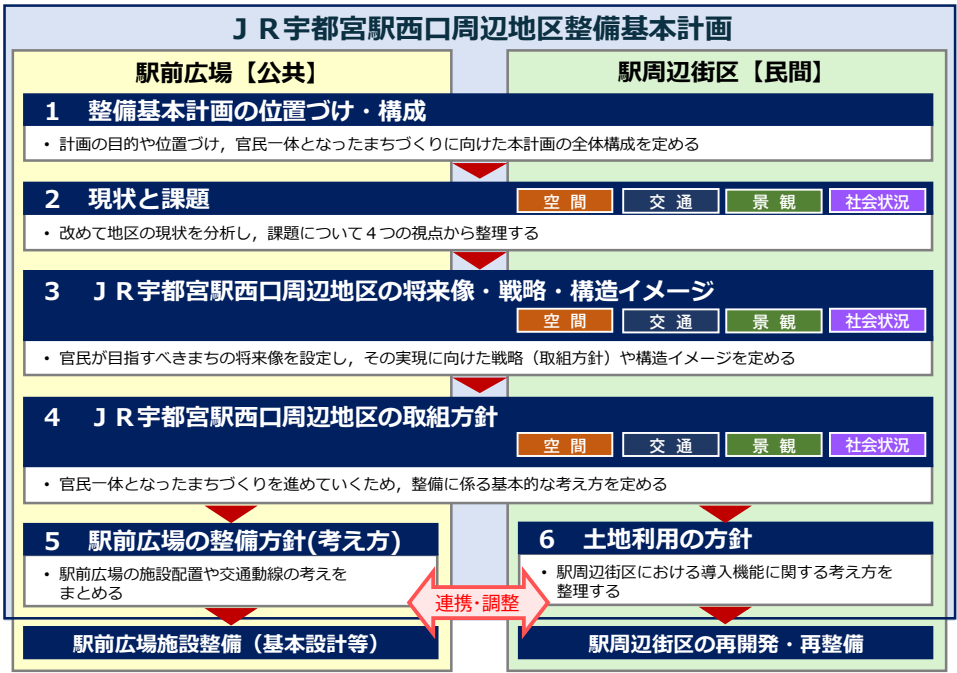
【上位計画】JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想

- 駅西口周辺地区については、駅前広場の整備改善や駅前地区における市街地再開発事業の推進、北地区などに存在する低未利用地の活用等の地区整備を一体的かつ効果的に推進し、北関東の中核都市の玄関口にふさわしい活力と魅力あるまちづくりを実現するため「広域的な交流拠点にふさわしい活力と風格あるまちづくり」を基本理念のもと、以下の目標を掲げ、まちづくりを推進していくこととしています。



計画の構成

- 駅西口周辺地区における官民が連携した一体的なまちづくりに向けて、将来像や整備方針をまちづくりに携わる関係者と共有することで、公共・民間それぞれの整備時期が異なったとしても最終的には一体的なまちが出来上がることを期待して右記のような構成とします。
- また、駅前空間の中心となる駅前広場については、整備方針を踏まえた上で整備計画を作成いたします。



◆景観に関する現状と課題

- ①地域資源との繋がりの不足
- ②統一感に欠けた景観
- ③緑を感じられる空間の不足
- ④駅西側L R T整備の検討

◆社会状況に関する現状と課題

①多様化するニーズへの対応

②脱炭素社会の構築

③自然災害に強く しなやかな環境形成

将来整備に向けた課題

- 田川や大谷石など地域資源を活かした景観形成に取り組む必要があります。
- 建築物や看板は形態・意匠に配慮し統一感を持たせるとともに、道路や沿道敷地内の緑化を進めることで潤いある景観を形成していく必要があります。
- 宇都宮のシンボルであるライトラインと沿線景観などが調和の取れたまちなみを実現していく必要があります。

将来整備に向けた課題

- バリアフリー化やサインデザインの工夫等による多様化するニーズへの対応や、将来変化に柔軟に対応できるまちづくりを進めていく必要があります。
- 車から人中心のまちづくりによる排出ガス削減や建築物の省エネ化・緑化など、本市が取り組むゼロカーボンシティ実現に向けたまちづくりを推進していく必要があります。
- 円滑な避難路の確保や備蓄倉庫の設置、豪雨時の浸水対策など、防災の視点を考慮した自然災害に強いまちづくりを進める必要があります。

第三章 駅西口周辺地区の将来像・戦略・構造イメージ

駅西口周辺地区の将来像（2050年頃）

県都の玄関口にふさわしい風格とにぎわい溢れる
「交通」と「まち・水・緑」が調和した人中心の居心地の良い空間

- 駅前広場だけでなく、周辺の民間街区の再整備も含めた将来像を共有するため、将来像は、約30年後の2050年頃とする。
- 「空間」「交通」「景観」「社会状況」の4つの視点から整理した課題を解消し、県都の玄関口にふさわしい風格を備えた駅前空間を創出していくための「将来像」を以下のとおりとし、将来像の実現に向けて4つの戦略を掲げる。

空間

人中心の新たな「駅まち空間」

交通

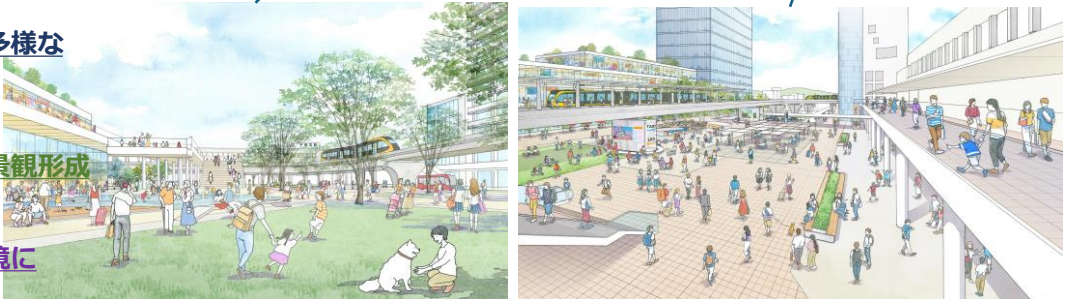
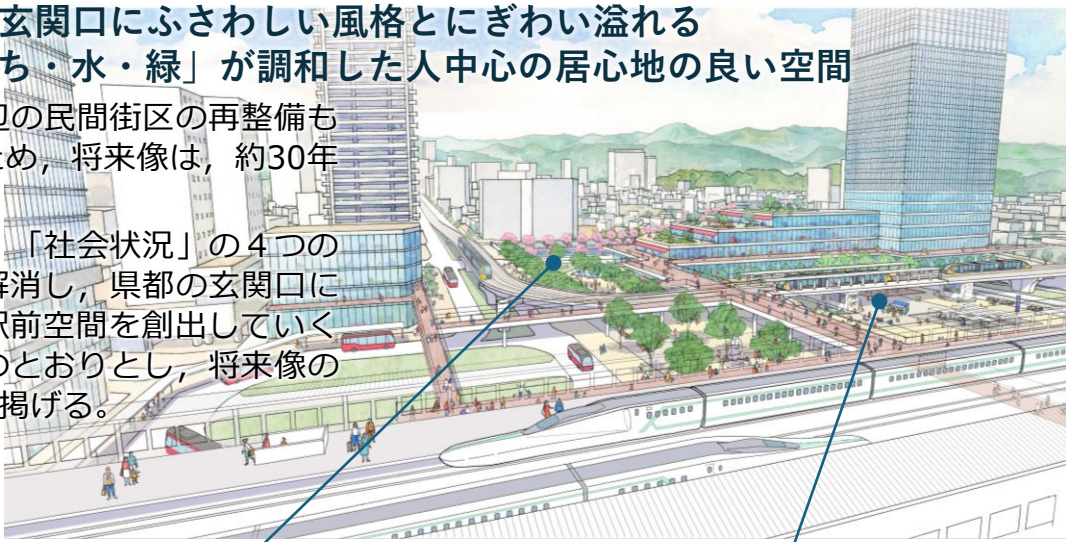
誰もが安全・安心に移動でき、多様なモビリティが連携した交通空間

景観

水と緑を活かした統一感のある景観形成

社会状況

社会変化に対応できる、人と環境に優しいまちなか



2050年頃の駅西口周辺地区の将来像イメージ

第四章 駅西口周辺地区の取組方針

取組方針の目的と構成

- 将来像の実現に向けた、地区の現状や課題を踏まえた各戦略ごとの取組方針

エリア全体の取組方針

空間 人中心の新たな「駅まち空間」

- 駅・駅前広場・周辺街区が一体となった人中心のウォーカブルな空間を形成
- 市民や来街者にとって居心地の良い、憩いや交流の場所となる空間形成
- にぎわいと魅力向上につながる都市機能の導入と効果的な配置

出典：国交省
駅まちデザイン
の手引き



交通 誰もが安全・安心に移動でき、多様なモビリティが連携した交通空間

- 誰にとってもスムーズな乗継利便性の高い交通空間の形成
- 回遊性が高く、安全安心な歩行空間の形成
- デジタル技術の積極的な活用と需要の変化に応じた柔軟な対応

出典：一般財
団法人 柏市ま
ちづくり公社
柏駅前デッキ



景観 県都の玄関口にふさわしい潤いと風格のある景観の形成

- 水と緑が感じられる駅前にふさわしい景観の形成
- 宇都宮の文化を感じられる景観の形成
- 誰もが快適に感じられる景観の形成

田川の桜並木



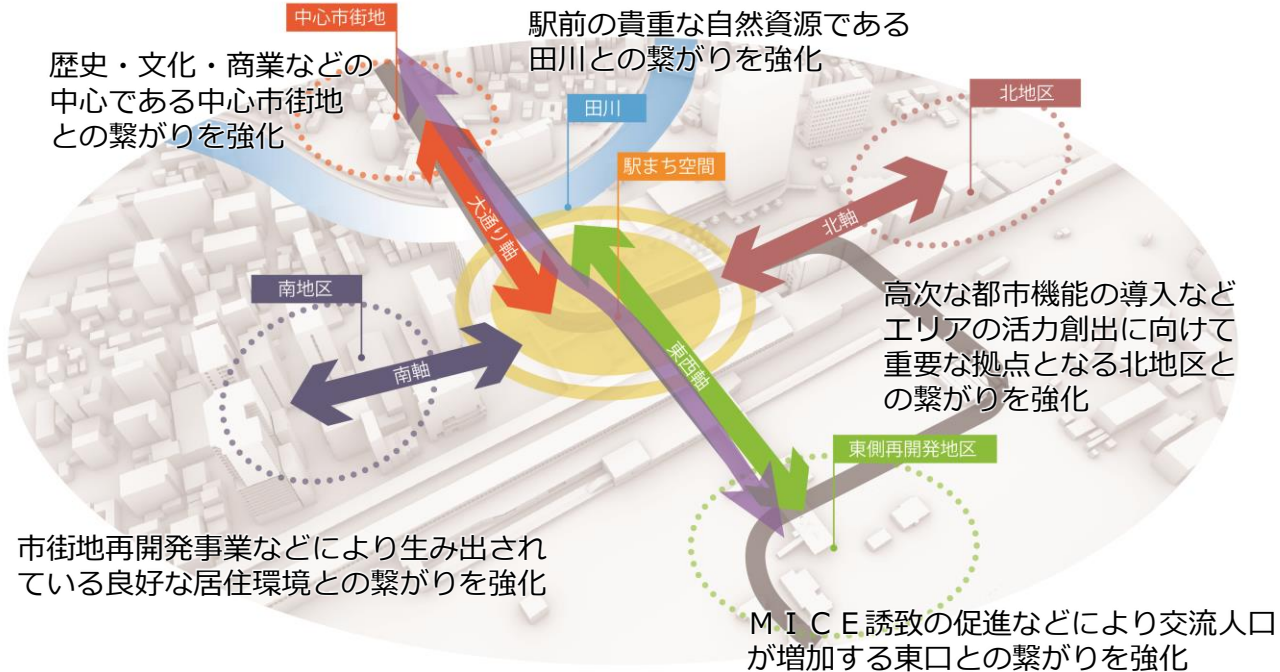
社会状況 社会変化に対応できる、人と環境に優しいまちなか

- 誰一人取り残さないインクルーシブなまちづくり
- 脱炭素社会の実現に向けた取組
- 自然災害に強くしなやかな環境形成
- 空間の質を担保する仕組みづくり

駅西口周辺地区の構造イメージ

○駅まち空間を中心とした4つの軸

- 将来像を実現するため、駅や駅前広場と周辺街区を一体的に捉えながら、駅前広場などの「駅まち空間」を中心に、周辺街区との繋がりを強化するため「大通り軸」「東西軸」「南北軸」を形成していきます。



第五章 駅前広場の整備方針（考え方）

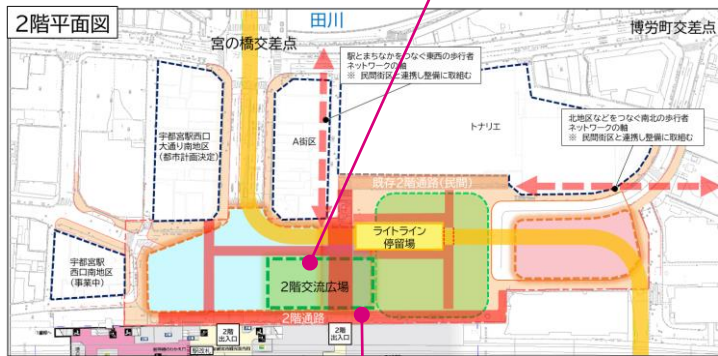
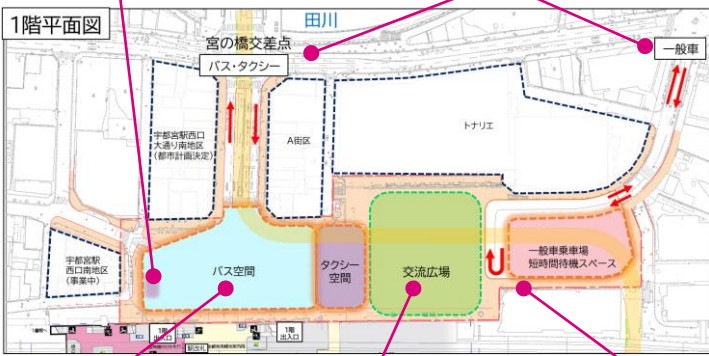
駅前広場の平面図イメージ

○駅前広場の整備の考え方（駅西側ライトライン開業時）

- 駅前広場への過度な自動車の流入抑制や歩行者と自動車の錯綜を解消していくことを基本に、限られた駅前空間を活用した各交通モードの特性を踏まえた効率的な交通施設等の配置や駅前へのアクセス動線の設定、1階と2階レベルにおける階層性のある歩行空間や広場を配置していきます。
- また、将来のさらなる自動運転技術の進展や交通需要の変化などにも対応しながら、人中心の空間に転換できる、可変性のある空間配置としていきます。

- ・駅改札付近にタクシー乗車を確保
※タクシー乗車場の円滑な運用を検討
- ・交通の円滑化を図るため、アクセス動線を分離
宮の橋交差点【バス・タクシー】
博労町交差点【一般車】

- ・来訪者が本市の顔として最初を感じる、本市の象徴となるライトラインと一体となった2階レベルの空間（交流広場）を配置



- ・バス乗降場の形式
バスと歩行者動線を分離し、安全面を考慮したロータリー式とする

- ・東西軸を中心に新たな駅前の顔となる空間を確保し、かつ乗り継ぎ利便性向上のため、交通施設に隣接した駅前広場を中心に交流広場を配置

- ・一般車乗降空間内において、障がいや病氣、妊産婦等外出時に配慮を要する方のための乗降スペースを配置

- ・1階レベルに交流広場とゆとりある通路を確保するとともに2階レベルの通路も活用し、歩行者と車道の錯綜を解消
- ・駅とライトライン、周辺民間街区をつなぐ回遊性の高い歩行者動線を設定
- ・主要な乗り継ぎ動線などにはバリアフリーや利便性に配慮した昇降施設を設置

第六章 土地利用の方針

駅西口周辺地区の目指す将来の土地利用の方向性

○土地利用に対する考え方

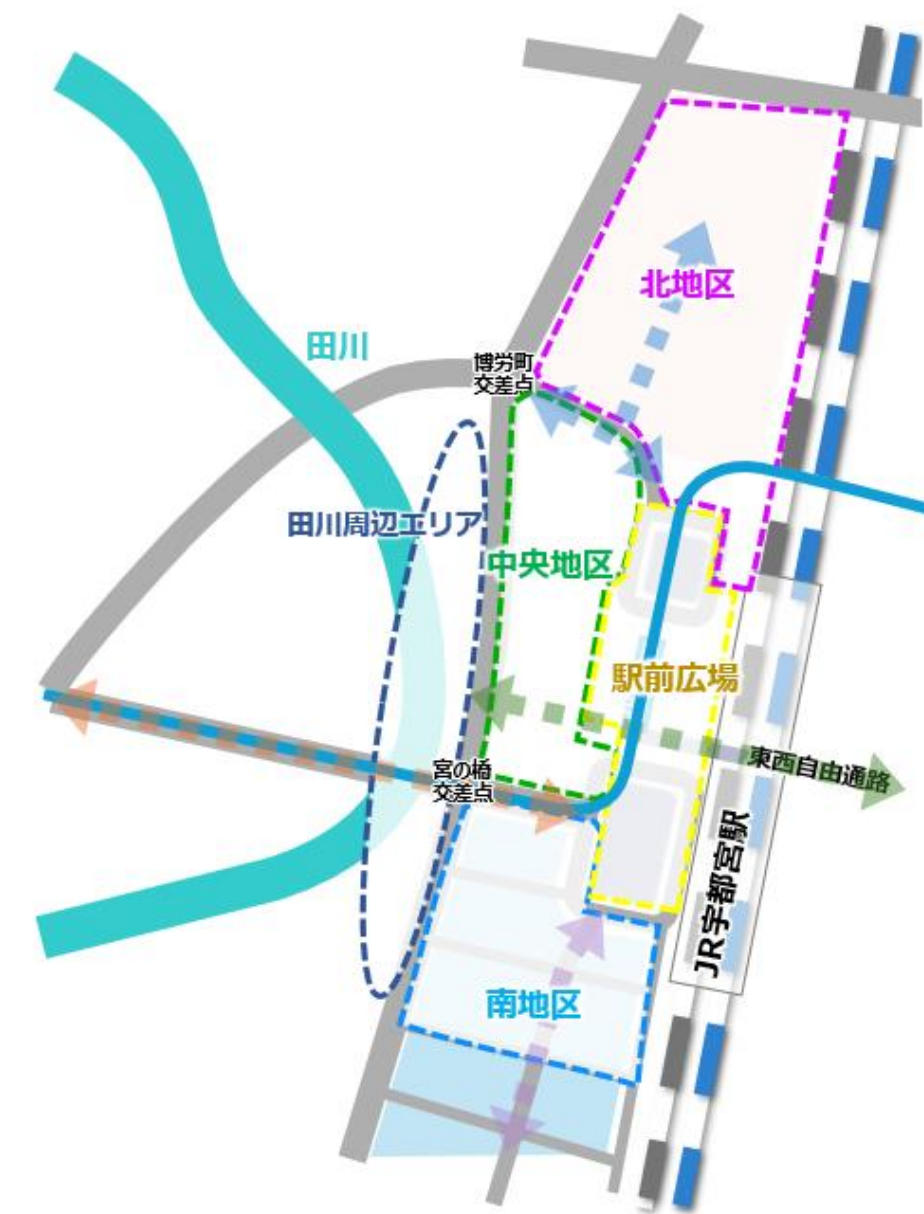
- 駅西口周辺地区の目指す将来像実現に向け、現在の土地利用（既存の都市機能など）やアクセス動線などの交通計画を考慮し、駅前広場周辺における市街地再開発事業などによる土地利用の方向性を整理します。その上で、各地区の特性も考慮しながら導入機能を整理します。
- 周辺民間街区の再編に向けては、土地利用の方向性や導入機能を明示し、官民で一層連携を深めながら取り組みを加速化させていきます。

※目指す土地利用に合わせた用途地域の適正化や都市計画制度の運用（地区計画など）を検討

※駅東口におけるM I C E誘致の促進などによる交流人口増加の受け皿となる機能の導入を検討

※水と緑が感じられる駅前にふさわしい景観形成に向けたルールづくりや、脱炭素や防災機能の強化を図る施設の導入を検討

○土地利用の方向性（目指す空間）



駅前広場（交流広場等）

交流広場を中心に、まちなかと駅をつなぐ、人とライトラインやバス、タクシーなど各交通モードが共存した人中心のウォークラブルな空間を形成

- 公共交通利用者などが乗継ぎの合間に使いやすい機能
交流広場、交通利便機能

中央地区

駅前広場に隣接し、働く人や学ぶ人、住む人など多くの人が行き交う拠点として、様々なニーズに対応できる機能が集積した広域的な交流と賑わいの空間を形成

- 多様な目的を持った多くの人に対応できる複合的な機能
商業、医療・健康、教育・文化、業務、宿泊、子育て支援、多世代交流など

南地区

市街地再開発事業などによって生み出されてきたゆとりある歩行空間や緑を感じる沿道を活かした、憩いへとつながる生活空間を形成

- 現在の土地利用を踏まえた機能や、来訪者の多様なニーズに応えられる機能
居住、宿泊、商業、業務、駐車場など

北地区

駅西口周辺地区の活力創出やエリアの魅力向上に向けた重要な拠点として、基盤整備により低未利用地を利活用し、都市機能の導入など賑わい空間を形成

- 人の流れを誘発し賑わい創出や駅利用者などの受け皿になる機能
商業、医療・健康、教育・文化、業務、居住、宿泊、集約駐車場など

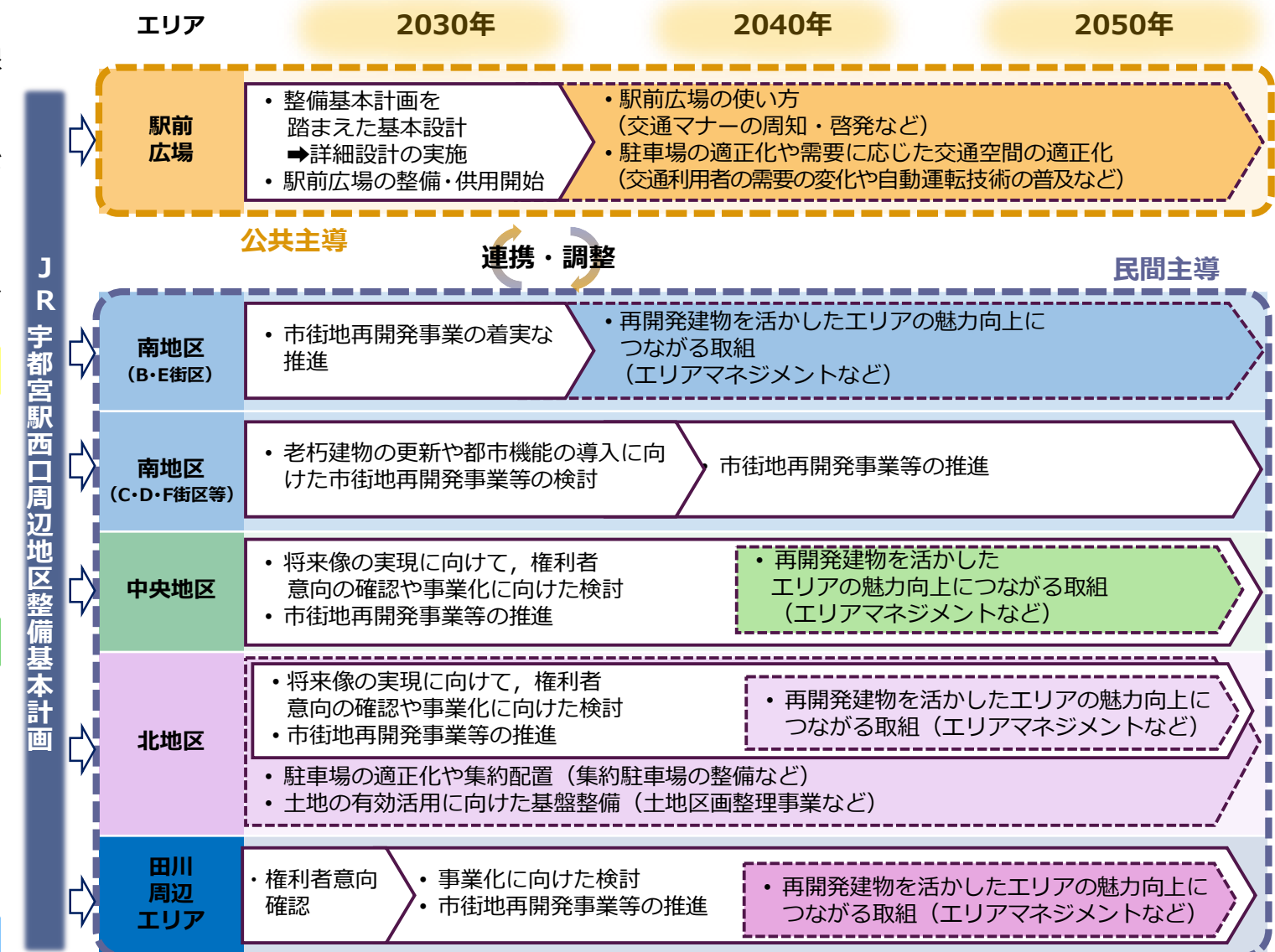
田川周辺エリア

中央地区・南地区などと連携を図りながら、田川などの地域資源を活かした、水や緑を感じられる賑わい空間を形成

- 地域資源に隣接する強みを活かした回遊性や賑わいを高める機能
商業、宿泊、居住など

第七章 整備に向けた今後の取組イメージ

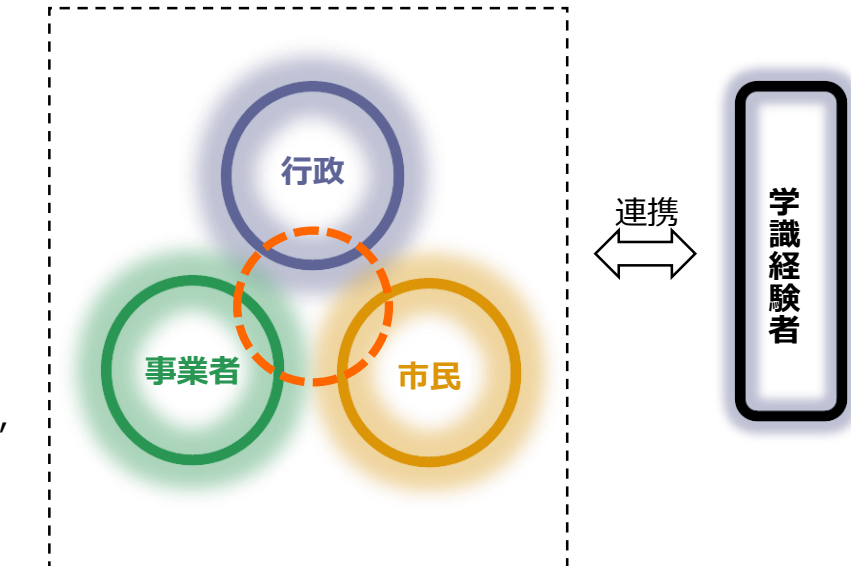
駅西口周辺地区整備に向けた進め方



事業推進に向けて

- 官民が一体となって将来像を実現していくため、基本計画を踏まえながら、ライトラインと一体となった駅前広場の施設配置や動線計画などについて、交通事業者や交通管理者、栃木県などの関係機関と十分に連携・調整を図りながら取り組むとともに、周辺街区における市街地再開発事業などについて、地元権利者の合意形成や民間事業者との密な連携・調整のもと取り組んでいきます。
- 実施に当たっては、官民が同じ方向を向いて整備を推進していく必要があるため、引き続き外部懇談会などを設置し、学識経験者や地元住民の代表者などの意見も伺いながら、これまで以上に官民一体となって取り組んでいきます。

■推進体制



参考資料

駅前広場の基本平面図(案)

- 「基本平面図(案)」は、第5章に示す平面図イメージを基に、交通事業者等の関係者との議論を踏まえた、駅前広場整備の方向性を示したものです。
- 今後、本図面を基に、より詳細に交通施設の配置や規模、昇降施設の配置などの検討を深めていきます。

